

令和4年度 2学期始業式 校長あいさつ

令和4年（2022年）8月23日（火）

みなさん、こんにちは。校長の石川です。

夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まります。みなさん夏休みはいかがお過ごしでしたか。元気で過ごすことができたでしょうか。夏休み中に行われた各種行事、補習、そしてインターハイや全国総文祭、各種大会等、皆さんの努力と活躍の様子については多くの先生方よりお話をうかがっています。

さて、行動制限は伴わないものの、新型コロナウイルス感染症の第7波により影響を受けた人も少なくなかったと思います。外に出かける計画があった人も、予定を変更せざるを得ない状況になった人もいたのではないのでしょうか。また今年も特定の場所で線状降水帯が発生し、大雨の災害を受けた地域が出てしまいました。心よりお見舞いを申し上げます。これから台風の季節を迎えますので、あらためて自分の周囲にも発生し得ることとして捉え、ご家族でも避難経路や避難方法について話し合ったり、日頃より避難に備えての準備を行うなどの、防災、減災への意識を高めて欲しいと思います。

さて、この夏は感染症に伴う行動制限がなかったということで、お盆のUターンラッシュの話題が久々にニュースをにぎわせていましたね。皆さんの中でもご家族のお盆休みに併せて、親御さんのご実家に帰省した、あるいは親せきや兄弟が帰ってきたという人もいるのではないのでしょうか。

現代の社会は、様々な価値観や考え方、信仰がありますし、生活の多様化も進んでいますので、以前行われていたようなお盆の習慣をやらない家庭も増えていますが、中にはおじいちゃんおばあちゃんの家には、お坊さんがやってきて、お仏壇でお経を読んでいくよ、なんておうちもあるかもしれません。今日の話しは、このお経の一節を少し引用してみたいと思います。といっても、信仰とは全く関係なく、決して仏教の宣伝や宗教教育をするのではなく、私の純粋な探究学習の報告だと思って聞いてください。

さて、少し前、NHKのチコちゃんでも取り上げられていましたが、お経って、亡くなった人に向けて読まれているのではなくて、残された人、これから生きていく人たちに向けて読まれているって知っていましたか？

その中で、今日ご紹介するのは鎌倉新仏教と呼ばれる浄土宗及び浄土真宗で用いられている経典の中にある「仏説阿弥陀経」というお経の一部です。日本史をとっている3年生は、鎌倉時代に広がったこれらの宗派の開祖と、その説の特徴などの知識は即座に答えることができると思うんですが…、まあいいや。その中

にこんなフレーズが出てきます。漢文で書かれているこのフレーズを示しますね。現代語訳をすると、こんな感じです。

「極楽世界には大変美しい池があり、その池の中には色とりどりの車輪のような大きな蓮の花が咲いている。青い蓮の花は青い光を、黄色い花は黄色い光を、赤い花は赤い光を、白い花は白い光を放ち、いずれも美しく、調和し、その香りは気高く清らかなものである。自らの色、そのままで光り輝いて咲くことこそが尊いのだ。」

簡単に言うと、極楽にある池に浮かんでいる大きな蓮の花は、みんな異なる色をしているんだけど、それぞれ清らかで、協調しながら美しく輝いている、ってことです。我々の社会にあてはめてみると、元気のいい人もいれば、おとなしい人もいる。目立ちたい人もいれば目立ちたくない人もいる。背の高さ、髪の色といったことから、得意とすること、価値観や性的嗜好までじつにいろいろなんだけど、そうした多様な仲間の中で、それぞれ輝きを放ち、どちらが上とかどちらが下とか、正解とか不正解とかは無い。そんな社会であれば、心穏やかに、それぞれの個性を伸ばすことができるということでしょうか。

我々の社会は極楽とは違うよと突っ込まれそうですが、私はそんな社会であればいいなあといつも思っています。なぜなら私も人とは違う自分の個性に高校生の頃からコンプレックスを感じ続けてきたからでしょうか。あらためて、考え方の違う相手であっても、それぞれの個性をリスペクトすることの大切さや、自分が少し他人と違うかもしれないと感じても、ちゃんと光り輝いているんだと自信を持ってもらいたいと思っています。いつも仲良くしている人が、実は自分と少し違う考え方なんだ、と気づくことにはショックを感じるかもしれませんが、それもそれぞれの輝きなのではないかと思います。今、少し自分に自信を無くしている人もいるかもしれませんが、必ず自分にはどこかに輝きがあるんだということを信じてほしいと思うし、輝くための最善の方法を、ともに考えてくれる友達や親や先生がきっと周りにいるはずですので、頼って相談してもらいたいと願っています。

3年生は進路本番をいよいよ迎えるわけですが、それぞれ進路選択も違うし、受験の方法も違うし、卒業後の住む場所も違ってくるとは思いますが、他人のやり方に振り回されたり、うらやましく感じたりするのではなく、今の自分、その進路を選択した先の自分が輝くことを信じて、歩んでほしいと思います。また輝く場所が違う、と思った時には、恐れることなくやり直してください。多少の回り道も、人生においては重要な経験値となるはずです。一方、2年生は学校の運営や部活動などを引き継ぎ、中核となるための準備を進める時期でもあります。さ

らに1年生は、高校での自分の可能性を見つめ、大きく飛躍する時です。運動に、学びに、文化活動、興味関心のある事項に、じっくりと取り組んで、自分の輝きを磨いていただきたいと願っています。

さて余談ですが、やっぱり深志高校ですので、お坊さんの説法みたいなことにとどまらず、もう一步突っ込みたいところですよ。実は本校の先生方の余談も実に味があって面白いと思うのですが、(まあ感じ方は人それぞれだと思いますが)、さらに探究学習を進めたことを話します。インドからこの経典が中国にわたってきて、漢文になっていますが、この阿弥陀経をはじめとして、大乘仏教の経典の原点の多くはサンスクリット語という言語で書かれています。ちなみに大乘仏教というワードも歴史や地理で出てきますよ。そこで、さっきの漢文のフレーズを原点のサンスクリット語で示してみましょう。

字を見ると、思いっきり南アジアから西アジアにかけての言語だっていう感覚になりますよね。

ニーラーニ ニーラヴァルナーニ ニーラニルバーサーニ ニーラニダルシャナーニ

ピーターニ ピータヴァルナーニ ピータニルバーサーニ ピータニダルシャナーニ

ローヒターニ ローヒタヴァルナーニ ローヒタニルバーサーニ ローヒタニダルシャナーニ

読んでみると、韻を踏んでいたり、リズムカルだってことがわかります。何回か口ずさむと4拍子、4拍子、5拍子、5拍子で構成されていて、まるでラップのようでもあります。私が中学生のころ、英語の先生がよくマザーグースの歌を授業で教えてくれたんですが、マザーグースの詩も韻を踏んでいたり変拍子になっていたりして、頭の中をぐるぐる回って40年経った今でも口ずさむことができます。言語だとか詩とかは音楽的になって、人々に浸透していくというのは、時代や地域が変わっても同じなんだなという思いになってきます。

ほら、いろいろな教科が結びついてきました。一つのテーマからいろいろ気づくって面白いですよ。

さて、日中はまだまだ暑いですが、朝晩は少しずつ秋の気配を感じてきました。9月の秋分の頃に咲く花にヒガンバナがあります。別名「曼殊沙華」といいますがこの名前もサンスクリット語の「マンジューシャカ」からきているそうです。話しがどんどんそれていきましたのでやめておきます。寒暖差で風邪をひかないよう、感染症対策も引き続きよろしくお願いいたします。